

SHIRAKOBATO

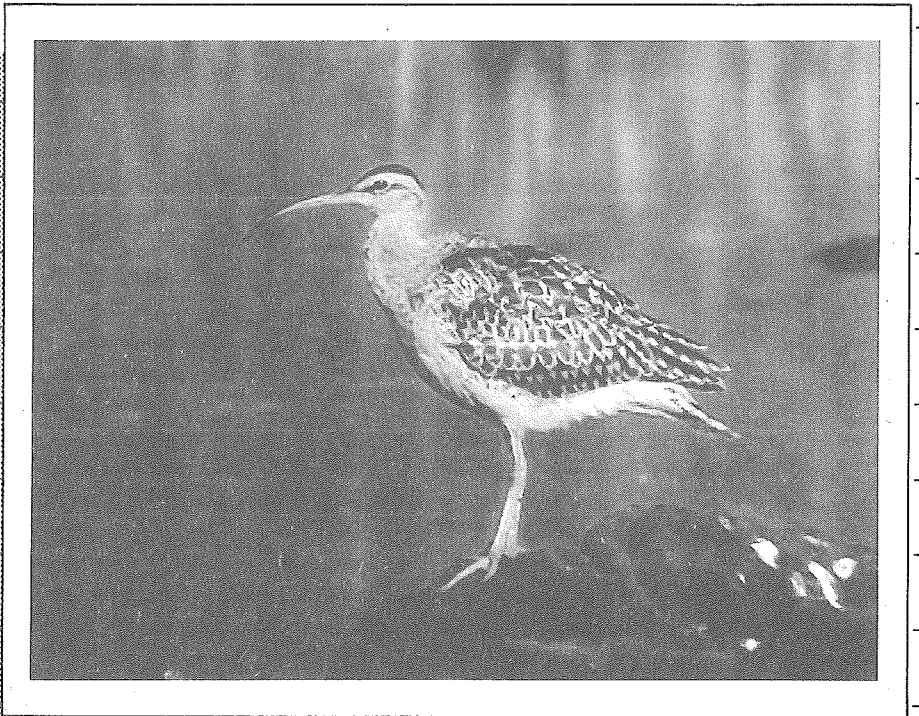
# しらこぼと



1997. 3

SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

WILD BIRD



NO. 155

日本野鳥の会 埼玉県支部

# オオハムとシロエリオオハムの識別

榎本秀和（鴻巣市）

日本で記録のあるアビ目アビ科の鳥は4種類ある。そのうち、アビやハシジロアビは、その大きさや外観から識別は比較的容易なものと思われる。問題はオオハムとシロエリオオハムの識別であるが、「知ってる人は知ってたのね～」というお話。

## ◇まずは図鑑を

『フィールドガイド日本の野鳥』（以下、FGと略記する）の該当頁を開いてみよう。開いてすぐわかることは、オオハムとシロエリオオハムがたいへんよく似ていること。欧米の図鑑では同種と扱われる場合も少なくない。解説文を読んでみると、いちおう両種の見分け方についての説明はある。イラストのほうも夏羽でなら、かろうじて両種の相違が見いだせる。

しかし、これだけでは、よほど条件が良くないかぎり野外での識別はむずかしい。だいたい、冬鳥として渡来するというのに「冬羽ではほとんど見分けられない」というのでは困ったものだ。

瀬戸内海沿岸にはアビ類を利用した漁法があるが、鳥の種類としてはシロエリオオハムが多いというけど、どうやってそれがわかったんだろう、などと考えてしまう。

## ◇ところが先日のこと

『日本動物大百科』第3巻「鳥類I」（平凡社刊）のアビ目の頁を見ていて「ヘェ～」とひとり唸ってしまった。参考までにその全文を掲げる。

「冬に全国の沿岸に渡来。野外で見分けるのはむずかしいが、シロエリオオハムは夏羽、冬羽とも、オオハムにある脇腹の後部の白斑がなく、冬羽では、あごに黒い線がある。」（同書12頁の写真のキャプション）

このように、FGに出ていないオオハムとシロエリオオハムの識別点が明示されているのである。あらためてFGを見てみると、シ

ロエリオオハム（夏羽）のほうのイラストの脇腹後部に白色部分があって、上記の記事とは矛盾する。

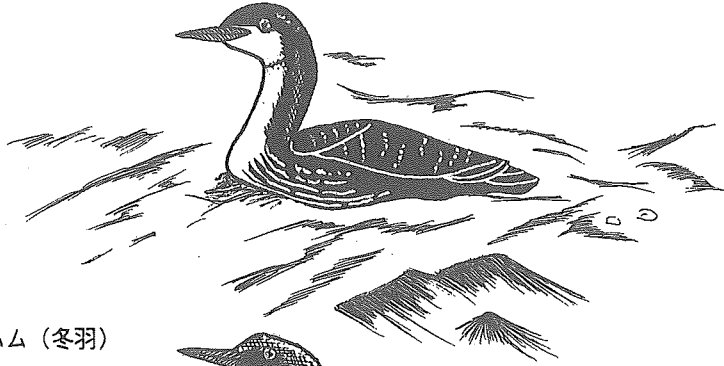
## ◇図鑑を総動員

こうなったら我が家にある図鑑を総動員。『SEABIRDS - An Identification Guide』、『SEABIRDS OF THE WORLD - A Photographic Guide』（共にPeter Harrison著）には、白斑についての記述はあるがあごの線については触れられていない。

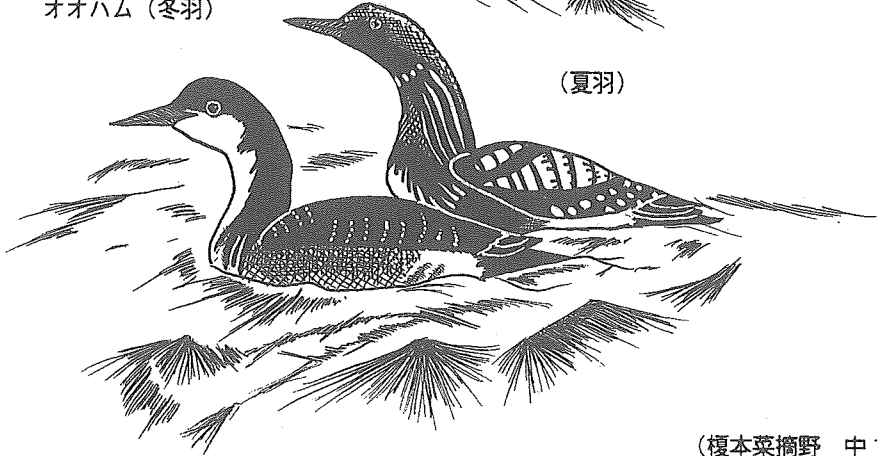
次に『A Field Guide to the Waterbirds of Asia』（日本野鳥の会刊）を取り出してみる（余談であるが、この図鑑のイラストは谷口高司氏が担当されている。FGのイラストよりも私の好みに合っているので、私は日頃の探鳥にも活用しているが、とりわけシギ類の観察に際してはお勧めしたい一冊である。日本語版はない）。これを見て驚いた。何とこの図鑑では、『日本動物大百科』の記事と同様にオオハムとシロエリオオハムがちゃんと描き分けられているではないか。

さらに調べてみると『Field Guide to the Birds of North America』（National Geographic Society刊）にもあごの線の記述が見られる。なお、この北米の図鑑によれば、オオハムにはシベリア型とヨーロッパ型とがあり、後者の夏羽の前頸はシロエリオオハムと同じように光沢のある紫色ということである。ちなみに、オオハム（Black-throated Diver）しか見られないヨーロッパの図鑑では、夏羽の前頸の色はたいして問題ではなさそう、文字どおりBlack-throatedほどの記述だけであった。

シロエリオオハム (冬羽)



オオハム (冬羽)



(夏羽)

(榎本菜摘野 中1)

### ◇次はしっかり見るぞ

典型的な夏羽などなかなか見られはしないのだから、冬羽の確実な識別にヒントを与えてくれた『日本動物大百科』の記事には感謝しなければならない。それにしても、ほかの図鑑もよ〜く読んでいれば書いてあることだったのに。これでは自ら不勉強の証明をしてしまったようなものだ。

プアな体験を披露するようだが、筆者はこれまでに4回オオハム(たぶん)を観察したことがある。太平洋側と日本海側でそれぞれ2回、1羽ずつ。太平洋側は季節は冬、場所は千葉県銚子。日本海側は季節は春、場所は石川県輪島港沖で、こちらは船上からの観察だった。

その中でいちばん印象に残っているのは、銚子の外川漁港での遭遇。岸に上がっている

ところに出くわしたのだが、オオハムは慌てて(といってもノソノソとだが、あの体型では精一杯の速さだろう)海へ入って行った。潜水時間の長さ、潜水しながら進む距離の長さにびっくりしたものだ。

海鳥は、自分が海ナシ県に住んでいるためか、出会えたときの感激は大きいものがある。どこへ行けば見られる、という情報も入って来ないからかもしれない。前述の瀬戸内海のアビ類にしても、広島県支部の方に伺ったところ、そう簡単には見られなくなったということである。

いずれにしても、今度オオハムに遭遇した時には、この新知見を基に、より確実な識別をしてみたい。

というわけで、「知ってる人は知ってたのね〜」という一席、お粗末。

本稿は、この年末年始の休みに執筆した。年明け早々に入稿し、3月号掲載が決まった直後に発売された『BIRDER』2月号を見て驚いた。「アビ類観察の楽しみ」(木村裕一氏文)という記事が出ていたからである。こちらの一読もお勧めする。

更に、日本海重油汚染でのオオハムたちの悲しい知らせも重なり、複雑な心境である。

## ■ 緊急特報・日本海重油汚染からの野鳥保護 ■

### ■ OBIC活動開始

OBIC (Oiled Bird Information Committee 油汚染海鳥被害委員会) は、環境庁などの活動を助けて、海鳥を中心とする野生生物の被害状況を正しく把握し、生態系への影響を推定して、その回復に役立つ資料を残していくための連絡組織です。日本野鳥の会、日本鳥類保護連盟、山階鳥類研究所、世界野生生物基金日本委員会、日本ウミスズメ類研究会、PCG日本海海鳥保護委員会とその他個人研究者が構成メンバーで、日本野鳥の会が事務局を引き受けています。

活動内容は次のとおりです。

- 1, 被害の実状記録、規模の推定（行政などの調査への提言支援、標本の記録分析、海外専門家の招致）
- 2, 被害鳥救護活動の支援（獣医師・行政などの救護活動や沿岸パトロールの支援、メンバー間・関係機関・ボランティアらの情報交換、情報発信）
- 3, 活動支援寄付・募金の受付
- 4, 今後の対策への提言（緊急対処ノウハウのまとめ、報告書作成）

いち早く現地入りした塚本洋三副会長が、気がついたら24時間何も食べていなかったという活動の後、被害鳥の内生きているものは治療後に北海道ウトナイ湖に空輸してリハビリ、回復できたものは放鳥するシステムが動きだし、今後の事故対策マニュアルビデオ作成のための撮影クルーの派遣、死亡個体の識別と統計など、さまざまな活動が始められています。

### ■ OBICの募金窓口

郵便振替口座番号：00130-7-350734

口座名義：日本野鳥の会OBIC募金

当支部としては10万円送金しました。

他に、次のような募金受入先もあります。

被害鳥の治療については、野生動物救護獣医師協会＝口座番号：00120-2-350855、口座

名義：'97油汚染生物救援募金。

リハビリと放鳥をウトナイ湖サンクチュアリと協力しているのは、野生動物救援研究会＝口座番号：02730-4-47227、口座名義：同研究会。

福井県獣医師会と野鳥の会福井県支部などが構成する油汚染水鳥救護福井の会＝口座番号：00700-4-35388、口座名義：同会。

### ■ 被害鳥の数は

2月3日までに収容されたのは、環境庁発表資料によると、ウトウ445、ウミスズメ424、シロエリオオハム47、オオハム46、アカエリカイツブリ38、ウミネコ35、ウミウ17、ハシブトウミガラス16、ミツエビカモメ12、オオセグロカモメ9、アビ7、マドラウミスズメ7など、種名が判明したもので29種類、合計1,207羽に及んでいます。

さらに、沖合いで死亡し、海中に沈んだものが、その10倍以上に達するのではないかと推定されます。

### ■ ウトナイ湖での収容・放鳥状況

1月14日から2月1日までで、石川・福井両県から合計136羽が空輸されました。

内訳は、ウミスズメ100、アカエリカイツブリ14、オオハム6、ウトウ3などです。

そのうち2月1日までに放鳥できたのは、ウミスズメ47、アカエリカイツブリ10、オオハム6、ウトウ3など73羽で、死亡53羽、引き続き収容中10羽です。

更に被害の拡大も心配されます。今後のマニュアル作成なども含めて息の長い活動も必要とされています。引き続きご支援をお願いします。

OBIC連絡先

TEL：03-3463-8997 FAX：03-3463-8844

(文責・海老原美夫)

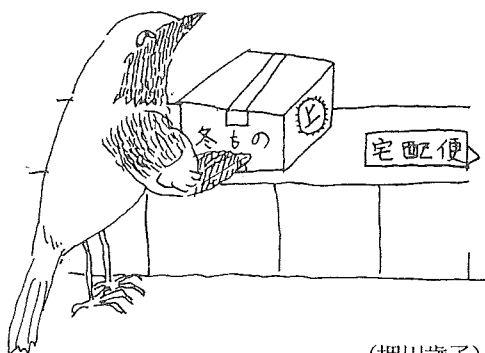
故郷石川の救護ボランティアに参加して 高文子(上尾市)

1月の三室探鳥会で鳥合わせの後、日本海沿岸の重油漂着による野鳥の被害状況とボランティアの必要性を報告したところ、その場で獣医さんを含む2人の女性が名乗り出て下さり、私のボランティア参加の決意も固まりました。と言うのは定員オーバーで既に切った伊豆沼探鳥会に強引にもぐり込んだ手前、自分の都合でキャンセルするのは申し訳ないと、ずっと迷っていたからです。

しかし、今はそんなことを言っている場合ではない！とその3日後には現地に入りました。石川県では、被害を受けた鳥は全て県の野鳥園に集められ、生きているものについては、活性炭水混液を飲ませ体内の重油を排泄させてから、35℃ほどの洗剤入りの湯で羽毛を傷めないよう完璧に油を洗い流し、次に30℃程の温風で完全に羽を乾かします。今度はワカサギ、ハタハタのすり身を注射器で食道まで入れてやり、体力を回復したのから軽いリハビリの後ウトナイ湖へ空輸し、更にウトナイ湖でケアし放鳥、と簡単に言えばこの様な経路をたどるわけですが、私は空輸の

前までのお手伝いとボランティアの獣医さん達のケアをさせていただきました。私が行った時は被害が始めてから既に2週間経っており、海岸から運ばれてくるものの殆どが鳥と思えない様な黒い油の塊でした。それでもウミスズメ、アカエリカイツブリ、クロガモ等が1日に1~2羽生きたまま回収され、それまでに保護された鳥とともに丁寧にケアしました。

しかし各過程の途中で1羽2羽と命を落とす鳥がいて本当に悲しい思いをしました。今後も続くであろう被害、ただ見守っていくしかないのが残念です。



(押川歳子)

白頭鷺の英名講座・第18回

チュウヒ属 - Harrier

チュウヒの仲間を総称してHarrierといいます。Harrierの語源はHarry = 略奪する、から「略奪する者、略奪者」です。チュウヒ(Harrier)に限らずすべての猛禽類(Raptor)はある意味では略奪者ですが、何故チュウヒのみがHarrier(略奪者)という名称を与えられたかは判りません。

このHarrier属は学名でCircus - サーカス - 空中に円を描いて飛ぶ、という意味のラテン名がついており、いかにもチュウヒの特徴的な低空飛翔をよく表しています。

日本で見られるチュウヒは次の3種類です。

- |         |                  |
|---------|------------------|
| チュウヒ    | Marsh Harrier    |
| ハイロチュウヒ | Northern Harrier |
| マダラチュウヒ | Pied Harrier     |

いわゆる「ただチュウヒ」も英名ではMarsh(沼地、湿地の) Harrierとなりその狩猟の場を

示しています。

バードウォッチャーに人気のあるハイロチュウヒ(Northern Harrier)のNorthernは「北の、北方の」Harrierの意で、その分布がかなり北に偏っていることをしめします。学名はCircus cyaneusとあり、cyaneus暗青色、暗灰色の、とその色を強調しています。

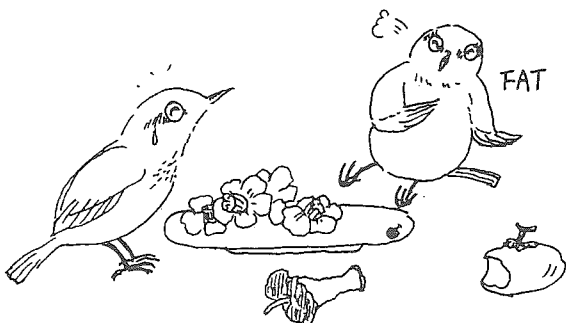
マダラチュウヒ(Pied Harrier)のPiedは、「斑の、雑色の」の意でこの種の配色を表現しています。学名のCircus melanoleucosもまたその配色の特徴である「黒と白の」チュウヒという意味です。

まだ記憶に新たなフォークランド戦争で活躍したイギリスのSer HarrierというVTOL(垂直離着陸機)は正に「海上の略奪者」とでもいえましょうか。

# 野鳥情報

- ハジロカイツブリ ◇12月21日、妻沼町の利根川刀水橋上流で1羽（樋口信之）。◇12月22日、北川辺町の渡良瀬遊水地で1羽（樋口信之）。◇12月27日、戸田市道満の彩湖で1羽（小林真哉）。
- ミミカイツブリ ◇12月6日、戸田市道満の彩湖で1羽（高橋達也）。
- カソリカイツブリ ◇12月18日、渡良瀬遊水地で夏羽に近い個体1羽、冬羽5羽以上（樋口信之）。◇12月21日、妻沼町の利根川刀水橋上流で4羽（樋口信之）。
- トモエガモ ◇12月15日、所沢市の柳瀬川で♂1羽（小林ますみ）。
- ヨシガモ ◇12月7日、戸田市の戸田橋付近の荒川で♂1羽（高橋達也）。
- ホオジロガモ ◇12月18日、北川辺町の渡良瀬遊水地で♂1羽（樋口信之）。
- ミコアイサ ◇12月18日、北川辺町の渡良瀬遊水地で♂1羽♀6羽（樋口信之）。◇12月28日、戸田市道満の彩湖で♂♀各1羽（陶山和良）。
- カワアイサ ◇12月18日、北川辺町の渡良瀬遊水地で♂13羽♀1羽（樋口信之）。
- オオタカ ◇12月18日、東松山市大谷で2羽。1月1日にも同所で1羽（中村豊己）。◇12月28日、戸田市の戸田橋付近の荒川河川敷で1羽（高橋達也）。
- チュウヒ ◇1月7日、戸田市道満の彩湖で1羽（陶山和良・順子）。

- チョウゲンボウ ◇12月25日、浦和市秋ヶ瀬のピクニックの森で1羽（陶山和良）。◇1月9日、三郷市の江戸川、JR武蔵野線鉄橋周辺で1羽。ツグミを捕らえる瞬間を目撃しました。鉄橋横を旋回していましたが、ツグミをねらって地面スレスレに飛んできて、1回目は失敗。2回目に成功しました（岩瀬和志）。
- ウズラ ◇12月21日、戸田市の戸田橋付近の荒川河川敷で1羽（高橋達也）。
- オオバン ◇12月28日、戸田市道満の彩湖で2羽（陶山和良）。
- イカルチドリ ◇1月11日、富士見市水子の柳瀬川左岸の田んぼで4羽（陶山和良・順子）。
- ケリ ◇1月5日～19日、菖蒲町の田んぼで最大6羽（樋口信之）。
- タゲリ ◇12月16日、伊奈町の伊奈学園脇の貯水池で7羽（樋口信之）。◇12月21日、妻沼町の利根川刀水橋上流で24羽（樋口信之）。◇1月12日、春日部市の内牧公園周辺の田んぼで約8羽（芳川伸一）。◇1月15日午後5時、志木市の荒川河川敷志木グラウンドで4羽。夕方になるとグラウンドに現れます（志賀敢）。
- セグロカモメ ◇12月18日、北川辺町の渡良瀬遊水地で7羽（樋口信之）。
- アジサシ ◇1月5日、浦和市秋ヶ瀬の荒川上空を2羽通過（芳川伸一）。
- シラコバト ◇12月4日、岩槻市の元荒川の城北大橋約10m上流の旧鶏舎周辺で21羽。餌が少なくなったらしく、以前に比べてかなり数が減ってきた（中村榮男）。
- アリスイ ◇12月25日、浦和市秋ヶ瀬のピクニックの森で1羽（陶山和良）。◇12月28日、戸田市道満の彩湖周辺で1羽（陶山和良）。
- アカゲラ ◇12月25日、浦和市秋ヶ瀬のピクニックの森で1羽（陶山和良）。◇12月31日、岩槻市の槻ノ森公園駐車場で♂1羽（中村榮男）。
- ビンズイ ◇1月15日、大宮市日進町1丁目で1羽。この日以後居ついている。最大4羽（森本國夫）。



(押川歳子)

キレンジャク ◇12月15日、寄居町赤浜で7羽（保坂達司）。

カヤクグリ ◇12月15日、所沢市の三ヶ島湿地で2羽（小林茂・ますみ）。

ルリビタキ ◇12月30日、岩槻市の岩槻城址公園で♂1羽（中村榮男）。◇1月10日、大宮市日進町1丁目です♀1羽（森本國夫）。◇1月16日、日高市の横手神社付近で♂1羽。ルリ色の背に脇のオレンジ色。とってもかわいいなと思いました（杉田千鶴子）。◇1月18日、東松山市大谷の雑木林です♀1羽（中村豊己）。

ジョウビタキ ◇12月21日、東松山市大谷の自宅前の栗の木に寄り添うように2羽の♂。縄張りを忘れて変な関係になっちゃったみたい（中村豊己）。

トラツグミ ◇12月23日、所沢市の「いきものふれあいの里センター」で1羽（小林茂・ますみ）。◇1月11日、浦和市秋ヶ瀬で1羽。地面を滑るように歩きながら採餌していた（新部泰治）。◇1月12日、東松山市の市民の森で1羽（中村豊己）。

シロハラ ◇12月30日、岩槻市の岩槻城址公園で1羽（中村榮男）。

アカハラ ◇12月25日、浦和市秋ヶ瀬のピクニックの森で1羽（陶山和良）。◇12月30日、岩槻市の岩槻城址公園で1羽（中村榮男）。

クイタダキ ◇1月21日、滑川町の森林公園でカラ類の混群の中に数羽。ホバリング

したり、アクロバットをやったりで頭の黄色いマークもよく見えた（中村豊己）。

ヒガラ ◇1月21日、滑川町の森林公園、彫刻広場でカラ類の混群の中に数羽（中村豊己）。

コジュリン ◇12月28日、戸田市道満の彩湖で2羽（高橋達也）。

カシラダカ ◇1月10日、大宮市日進町1丁目です4羽、最近では久しぶり（森本國夫）。

ミヤマホオジロ ◇12月12日、浦和市秋ヶ瀬の野鳥園横の小径で5～6羽。頭の黄色がすごくきれいでした（松尾英美）。

クロジ ◇1月1日、北本市の氷川神社で♂2羽。初詣の際、本殿横の弁天池の茂みで確認。今年は元旦から付きがいいのかしら（内藤洋子）。

マヒワ ◇12月3日、大宮市の市民の森付近の芝川新設橋のたもとで10羽。草の種子をついばんでいた（中村榮男）。◇12月27日、戸田市道満の彩湖で約30羽（小林眞哉）。◇1月8日、岩槻市槻ノ森公園グラウンド横で11羽（中村榮男）。

ベニマシコ ◇1月5日、浦和市秋ヶ瀬野鳥の森で♂1羽（芳川伸一）。

ウソ ◇12月10日、岩槻市の槻ノ森公園テニスコート付近で樹上で鳴きながら木の芽をついばんでいた（中村榮男）。◇1月21日、滑川町の森林公園、山田大沼東側で♂4羽♀1羽。桜の芽を啄んでいた（中村豊己）。

## 表紙の写真

### ハリモモチウシャク（シギ科）

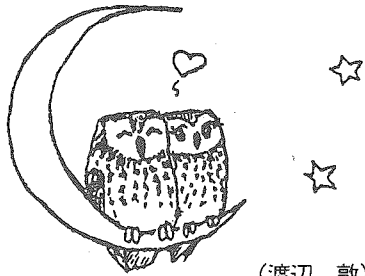
18世紀にタヒチ島で発見され、太平洋の島の固有種と考えられていたが、1869年にアラスカで採集された。1948年に初めて巣や卵が見つかり、アラスカ西部で繁殖することが分かったが、詳しい生態はまだ不明。1992年の生息数10,000羽という資料もあるが、減少の可能性がある。希少であり、繁殖地が限られていることから、危機的状況にあると心配されている。

冬は太平洋の島に渡って越冬する。日本にもまれに渡来する。

くちばしの湾曲度がチュウシャクシギより深い。腿は、この写真の様に普段は腹の羽に隠れていて見えないが、足を伸ばすと、針様の羽毛の腿が見える。頭側線が黒とある資料とダークブラウンとある資料があるが、この個体は足が黄色みを帯びていることから若い個体と思われ、そのために頭側線がダークブラウンに見えるのかもしれない。腰の色は淡い褐色。

本年1月14日、ハワイ・カウアイ島で撮影した。海老原美夫（浦和市）

# 行事あんない



(渡辺 敦)

特別な場合を除いて予約申し込みの必要はありません。初めての方も、青い腕章をした担当者に遠慮なく声をおかけください。私達もあなたを探していますので、ご心配なく。

参加費は一般100円。会員と中学生以下50円。持ち物は、筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、もしあれば双眼鏡など。解散時刻は、特に記載のない場合、正午から午後1時頃。小雨決行です。

自然保護のため、できるだけ電車バスなどをご利用のうえ、指定の集合場所までおいでください。

## 熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：3月9日（日）

集合：午前9時30分 秩父鉄道大麻生駅前

交通：秩父鉄道熊谷9:11発、または寄居9:03発に乗車

担当：和田、森本、小池、榎本、町田、岡安、中島（章）、石井（博）、倉崎、松本

見どころ：この間、冬鳥を迎えたと思っていたらそろそろお別れの時期になりました。今年の冬を楽しませてくれたコハクチョウをはじめ冬の小鳥達に感謝をして送り出しましょう。

## 坂戸市・高麗川探鳥会

期日：3月9日（日）

集合：午前9時 東武越生線川角駅前

交通：東武東上線川越8:12→坂戸にて越生線乗換8:41→川角8:50着、または寄居7:43→小川町乗継ぎ坂戸にて越生線乗換で8:25発に乗車

担当：高草木、藤掛、石井（幸）、青山、久保田、志村

見どころ：カモ類は少ないがカワセミ君は常住で出迎えてくれる。ヤマセミ君もカメラマン達に邪魔されずに出てきて欲しいと願って、樹木の新芽を見ながら川辺を歩きます。

## 大宮市・染谷見沼自然公園探鳥会

期日：3月9日（日）

集合：午前8時20分 JR大宮駅東口こりすのトトちゃん像前、集合後バスで現地へ。または午前9時20分、見沼自然公園駐車場（さぎ山記念公園の南西隣）。  
担当：工藤、新堂、楠見、兼元、森、浅見（徹）、吉岡

見どころ：日ごとに春らしさを増してきている見沼たんぼです。春風にヒバリはさえずり、北へ旅立つ鳥は採餌に忙しい。普段見過ごしてしまう風景にも自然は様々な表情を持っています。

## 長瀨町・宝登山探鳥会

期日：3月16日（日）

集合：午前9時30分 秩父鉄道長瀨駅前

交通：秩父鉄道熊谷8:23発、または西武鉄道所沢7:42発でお花畑9:01発に接続。

解散：昼過ぎ宝登山ロープウェイ山頂駅付近  
担当：小池、佐久間、町田、関根、青山、岡野、井上、林（滋）、新井、堀

見どころ：紅梅白梅は早春の宝登山に似合います。鳥達も負けずに赤、青、黄、色とりどりに着飾って春の到来を歌います。山頂までの2時間のハイキング、足捲えはしっかりしてご参加ください。

## 浦和市・三室地区定例探鳥会

期日：3月16日（日）

集合：午前8時15分 京浜東北線北浦和駅東口、集合後バスで現地へ。または午前



9時浦和市立郷土博物館前。

後援：浦和市立郷土博物館

担当：楠見、福井、手塚、伊藤、渡辺（周）、笠原、倉林、若林、岡部、兼元、森

見どころ：冬の鳥は北へ去りつつ、南からはツバメの初認。斜面林の木々は芽をだし、モモ、レンギョウ、モクレンで花盛り。花と鳥の三室へいらっしやい。

### 秩父市・羊山公園探鳥会

期日：3月20日（木・祝）

集合：午前9時45分 西武鉄道西武秩父駅前  
交通：秩父鉄道熊谷8:23に乘車、お花畑駅下車、徒歩5分で西武秩父駅前に。または西武鉄道所沢8:05発快速急行に乘車して9:25着。現地集合は、公園の入口近くの大駐車場。

解散：正午頃、羊山公園にて

担当：海老原、福井、佐久間、小池、岡野、青山

見どころ：今年のスギ花粉は特に多くなりそうとの予想。しっかり武装しておでかけください。ベニマシコやレンジャクがお待ちしている・・・かも。

### 狭山市・入間川定例探鳥会

期日：3月23日（日）

集合：午前9時 西武新宿線狭山市駅西口  
交通：西武新宿線本川越8:43発、または所沢8:45発に乘車

担当：長谷部、高草木、藤掛、石井（幸）、小野、中村（祐）、山本、久保田

見どころ：毎年3月の見どころはツバメとイワツバメ。ワンパターンかも知れないが、毎年同じ時期に会えると言うことはとても大切なことですよ。

### 行田市・さきたま古墳公園探鳥会

期日：3月23日（日）

集合：午前9時30分 県立さきたま資料館前  
レストハウス

交通：JR高崎線吹上駅北口より、東武バス・行田車庫（佐間経由）行き8:55発に乘車、「産業道路」下車、徒歩約15分。

担当：内藤、岡安、榎本、和田、立岩、石井（博）、松本、島田

見どころ：復元中であった将軍山古墳も整備され9基の古墳が揃ったけど、樹木も整理され大変寂しい。でも意外な鳥が出現することに期待しましょう。

### 『しらこぼと』袋つめの会

とき：3月29日（土）午後1時～2時ごろ

会場：支部事務局108号室

### 栃木県・日光東照宮裏山探鳥会

期日：3月30日（日）

集合：午前9時30分 東武日光駅前

交通：東武伊勢崎線春日部7:44発（快速）東武日光行きに乘車、日光9:15着。

解散：現地にて午後2時頃

担当：中島（康）、松井、福井、桜庭

見どころ：神橋から稲荷川ぞいに東照宮裏山の道を滝尾神社まで歩きます。カワガラス、ミソサザイ等々が楽しめます。もうひとつの日光の発見ができますよ。

◆4月6日（日）・北本市石戸宿定例探鳥会  
・浦和市民家園周辺探鳥会

### ●埼玉自然学習センターの行事案内

日時：3月9日（日）10:00～12:30

内容：埼玉県生態系保護協会島田勉氏の講演「北本自然観察公園の昔と今」とバードウォッチング。

定員：50名 参加費：100円

応募受付：3月1日から電話(0485-93-2891)で先着順受付。

### ●東京支部研究会例会のご案内

日時：3月20日（木・休）14:00～16:00

場所：板橋区立成増区民センター5階（東武東上線成増駅前）

内容：奥多摩の野鳥たちについて、スライドやビデオで、川内博氏らが発表。

定員：先着40名 参加費：300円

問合せ先：（川内、夜間のみ）

# 行事報告

11月27日(水) 滑川町 武蔵丘陵森林公園

参加: 15人 天気: 曇時々小雨

カイツブリ カワウ コサギ アオサギ マガモ  
カルガモ コガモ オカヨシガモ ヒドリガモ  
オナガガモ ホシハジロ キンクロハジロ コジ  
ュケイ キジバト コゲラ ハクセキレイ セグ  
ロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツ  
グミ ウグイス エナガ ヒガラ シジュウカラ  
メジロ ホオジロ アオジ ハシブトガラス (29  
種) 今にも降り出しそうな曇天の下、15名で出発。  
西田沼には水鳥の姿もなく、水面がやけに寂しい。  
モズ・ホオジロ・アオジ等を観察しながら林の中  
を行くが、お目当てのルリビタキ・シメ・シロハ  
ラの姿は見えない。エナガ・ヒガラ・メジロ・コ  
ゲラ等の混群を見ながら山田大沼に着く。8種の  
カモがいたが、数が少ない。未だ冬鳥も少なく、  
時期的に早いのかと思う。(櫻庭 勇)

11月30日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア: 20人

赤塚義正、荒木恒夫、岩上昭代、江浪功、角田真  
喜子、倉林宗太郎、佐久間博文、佐藤巧慎、篠原  
東彦、島田恵司、鈴木啓紀、直井麻維子、中村榮  
男、野田政子、日根七郎、藤掛保司、藤野富代、  
森力、安原久子、渡辺喜八郎

12月1日(日) 本庄市 坂東大橋

参加: 40人 天気: 晴

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサ  
ギ マガモ カルガモ コガモ ヨシガモ オカ  
ヨシガモ オナガガモ トビ ノスリ ハイイロ  
チュウヒ チョウゲンボウ シロチドリ タゲリ  
ハマシギ キジバト カワセミ ヒバリ キセキ  
レイ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ  
ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ホオジ  
ロ カシラダカ オオジュリン カワラヒワ シ  
メ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス  
ハシブトガラス (39種) スタートの時は穏やか。  
土手の上から杭に止まるチョウゲンボウを、牧草

地ではノスリ君を首が痛くなるほどじっくりと観  
察する。ツグミ、ジョウビタキ、カシラダカ、シ  
メなどの冬鳥も目の前で見る事ができた。目玉  
商品のカワアイサだけが外出中で、一寸残念だっ  
たが、ハイイロチュウヒ♀がフライトしてくれ、  
ホッとした次第。鳥合わせの時、タイミングを計  
ったように「赤城おろし」が吹き荒れ、昼食もと  
らず退散とあいなった。(町田好一郎)

12月1日(日) 北本市 石戸宿

参加: 51人 天気: 晴

カイツブリ カワウ ゴイサギ マガモ カルガ  
モ コガモ ホシハジロ オオタカ コジュケイ  
キジ バン キジバト カワセミ コゲラ ハク  
セキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジ  
ョウビタキ アカハラ シロハラ ツグミ ウグ  
イス エナガ ヤマガラ シジュウカラ メジロ  
ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ ベ  
ニマシコ ウソ シメ スズメ ムクドリ カケ  
ス ハシボソガラス ハシブトガラス (39種) 歩  
き出して間もなく、我々の行く手の木の枝に群れ  
るウソを発見。その直後にベニマシコも出現して  
くれた。一夜堤では、逆光ながらカワセミの食事  
風景を全員でじっくり観察する事ができた。年  
末の自然からのラッキープレゼント——コゲラの  
赤色小斑で年の締めくくり。(岡安征也)

12月8日(日) 熊谷市 大麻生

参加: 31人 天気: 晴

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサ  
ギ コハクチョウ マガモ カルガモ コガモ  
オナガガモ ホシハジロ トビ ノスリ イソシ  
ギ キジバト カワセミ アカゲラ ヒバリ キ  
セキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒ  
バリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ  
ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カ  
シラダカ アオジ カワラヒワ シメ スズメ  
ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (38  
種) 前月と同様に明戸コースを選ぶ。かわいいお

目々のジョウビタキ、一寸不満そうなシメ、川風に冠羽がなびくカシラダカ、胸を張ってホッピングするツグミなど、冬鳥たちに沢山面会できた。入れ替わり立ち替りだったメインリーダーも今月で終了。1月からは和田さんが毎月ご案内です。よろしく!! (町田好一郎)

12月8日(日) 所沢市 狭山湖

参加:39人 天気:快晴

カイツブリ ハジロカイツブリ ミミカイツブリ カンムリカイツブリ カワウ アオサギ マガモ カルガモ コガモ オナガガモ ハシビロガモ キンクロハジロ ホオジロガモ トビ オオタカ キジバト コゲラ キセキレイ ハクセキレイ ビンズイ タヒバリ ヒヨドリ ジョウビタキ シロハラ ツグミ ウグイス ヒガラ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ ウソ シメ スズメ ムクドリ カケス オナガ ハシボソガラス (40種) 久しぶりにミミカイツブリを見た。ハジロカイツブリだと思っていたら、どこからともなくミミカイツブリだという声。よく見ると確かにそうだ。「狭山湖にミミカイツブリはいない」なんて思い込みがそもそものいけない。真面目に鳥を見よう。(長谷部謙二)

12月15日(日) 滑川町 武蔵丘陵森林公園

参加:55人 天気:快晴

カイツブリ カワウ アオサギ マガモ カルガモ コガモ オカヨシガモ ヒドリガモ オナガガモ ハシビロガモ ホシハジロ キンクロハジロ ミコアイサ キジバト カワセミ アカゲラ コゲラ キセキレイ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ ルリビタキ ツグミ ウグイス ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (37種) 風もなく静かな日。鳥日和かと思っただ、鳥影は濃くない。もっと鳥がいてもいいと思いつつ、西田沼から林間コースを山田大沼へと向かった。途中、後谷沼で陽光を浴びたカワセミ♀が出てくれた。山田大沼には久しぶりのミコアイサ♀がいて楽しませてくれたがカモは少ない。カワウの大群が沼上を乱舞。沼のそばの木はカワウの糞でベジキをかけたように何本も真っ白になっている。大沼はかつてカモが何千羽もいたのがまるでウソのようになってしまった。(内藤義雄)

12月15日(日) 浦和市 三室地区

参加:51人 天気:晴

カワウ コサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ オナガガモ オオタカ キジ バン コチドリ イソシギ タシギ ユリカモメ キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ シロハラ ツグミ ウグイス ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ ウソ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (39種) 博物館の暖かい後援とリーダーや参加者の熱意で無事やってきて、150回目を迎えた。ウソが初出現。思いがけず、博物館職員の中尾さんと母上の手作りの手鞆が参加者にプレゼントされ、全員感謝。200回を目指してがんばろう。(楠見邦博)

12月28日(土) 『しらごぼと』袋づめの会

ボランティア:21人

荒木恒夫、磯部宏、岩上照代、海老原教子、大坂幸男、尾崎甲四郎、櫻庭勇、篠原東彦、島田恵司、陶山和良、直井麻維子、中村治、中村榮男、野田政子、長谷部謙二、日根七郎、藤掛保司、藤野富代、谷津弘子、芳川伸一、渡辺喜八郎

1月3日(金、休) 浦和市 さぎ山記念公園

参加:60人 天気:晴

カイツブリ カワウ コサギ アオサギ コガモ オカヨシガモ オナガガモ ホシハジロ オオタカ キジ クイナ バン タゲリ キジバト コゲラ ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ シロハラ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ カケス オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (38種) 松井昭吾支部長と中島康夫副支部長兼普及部長の新年の挨拶にはじまり、出発間もなくシロハラが出た。コゲラ、アオジ、カシラダカと、次々観察しながら歩き、いつものタゲリのポイントに。年々数が少なくなり、今年はずいぶんゼロかと思っていたら、1羽が遠く近くと見事に飛んでくれた。終わってみたら38種も。探鳥会後は、例年通り酒や料理持ち寄りの野外懇親会。歌も飛び出し、最後まで天候に恵まれて、みんな顔が真っ赤っか。

(海老原美夫)

## 連絡帳

### ●堀越照雄顧問永眠

支部発足当初の1984年4月から1989年6月までの5年間監事をつとめて、草創の時期に大きな推進力となり、その後7年間顧問としてご指導いただいた堀越照雄さん（熊谷市）が、昨年10月7日に永眠されました。享年62歳。事務局に知らされたのは今年2月になってから。おおげさなことを嫌う爽やかな堀越さんらしい去り方でした。

御恩に感謝し、心からご冥福をお祈りします。

### ●ワールド・バード・カウント結果報告

昨年9月号本欄でご紹介した第2回NTTワールド・バード・カウントには、世界81の国と地域が参加し、観察された野鳥5,317種というみごとな成果となり、1月28日、NTTからバードライフ・インターナショナルのアジア部代表リチャード・グリメット氏に、5,317,000円が手渡されました。

ご協力ありがとうございました。

### ●子供教室バードウォッチングなど

1月19日（日）みさと公園で、三郷市高州地区文化センター主催の同教室が開催されて約20人が参加、当支部の山部直喜編集部長が講師を、篠原東彦会員がリーダーをつとめました。

1月26日（日）東京港野鳥公園で開催されたあさひカード（株）主催のバードウォッチング講座には約40名が参加、海老原美夫副支部長が講師を、海老原教子・倉林宗太郎・菱沼一充・福井恒人・中村榮男の幹事・会員らがリーダーをつとめました。

2月2日（日）には、三郷市と同市教育委員会主催の「三郷市次代を担う若者の船」事業の第2回研修（自然体験学習）が、中学生から20歳までの参加者約50名を集めてみさと公園などで開催され、山部直喜編集部長が講師を、神場真文・古谷愛子・村上由香会員らがリーダーをつとめました。

### ●企画展「狭山丘陵の野鳥」

期間：3月8日（土）～5月5日（月）

場所：東大和市立郷土博物館

開館時間：午前9時～午後5時

休館日：月曜と祝日の翌日

内容：「野鳥と共に生きるために」をテーマに、狭山丘陵の野鳥を写真とカービングで紹介。

問合せ：同博物館（207 東京都東大和市奈良橋1-260-2、TEL0425-67-4800）

### ●3月の事務局 土曜と日曜の予定

15日（土）編集会議、研究部会議。

22日（土）校正、役員会（仮日程）。

29日（土）袋づめの会。

### ●会員数は

2月3日現在2,790人です。

## 活動報告

1月18日 2月号校正（海老原美夫、工藤洋三、倉林宗太郎、桜庭勇、中村榮男、藤掛保司、松井昭吾）。

1月18日 役員会議（司会：藤掛保司、あさひカード探鳥会・関東ブロック会議・評議員会・核都市広域幹線道路に反対する市民集会への賛同・その他）。

1月25日 海老原美夫評議員が、評議員制度検討委員会の副委員長として、理事会に出席。

## 編集後記

昨日の朝、熊谷駅の近くを自転車で通っていたら、後ろからレンジャクの声に呼び止められた。思わずキョロキョロすると、テレビアンテナに止まっていた。思いがけない場所で出会うと、新鮮でうれしい。（森本）

研究部会に来たら、今回も、誰もいない。誰か来るだろうと冬鳥調査のまとめを始めたが、1人ではなかなかかかどらない。（トモ）

編集後記に何で研究部のぼやきが入るのか分からないけど、隣の席でかわいそう。（海）

『しらこぼと』1997年3月号（第155号） 定価100円（会員の購読料は会費に含まれます）  
発行人 松井昭吾 編集発行 日本野鳥の会埼玉支部 TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460  
〒336 浦和市岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号 郵便振替 00190-3-121130  
印刷 関東図書株式会社 （本誌掲載記事の無断転載はかたくお断りします）